

裏側になるので、うるさいというのはあるかもしれませんが、表よりは歩きやすいですもんね。市役所に来る道路になるので、「考えていません」というお返事でしたが、どこかで時間があれば考えていただければと。市民の声もありますのでね。

踏切は今年度中にできるのか。

○委員長（平嶋正一君） 課長。

○土木課長（山田 学君） 令和2年度中に完成で進めているところです。

○委員長（平嶋正一君） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（平嶋正一君） この3件についての質疑を終わります。

では、引き続き県営高尾川・県営鷺田川改修事業についての報告をお願いいたします。課長、説明をお願いします。

○土木課長（山田 学君） 立って説明させていただきます。

まず、スクリーンをごらんください。

高尾川床上浸水対策特別緊急事業の工事進捗についてです。

地下河川築造工事につきましては、3月1日時点で、発進立坑から約980メートルまでトンネル掘削が進んでおります。残りわずか約60メートルとなっているところでございます。3月中にはトンネルが貫通する見込みで、現在進められているところでございます。

続きまして、地下河川の出口となる流出施設工事につきましては、赤色の部分、施設本体が3月末までにおおむね完成する見込みでございます。

こちらは流出施設工事の状況でございます。施設本体の完成後は、引き続き護岸工事に着手し、出水期前、5月末ぐらいになりますけれども、それまでに完了する予定でございます。

続きまして、鷺田川の河川改修工事について報告いたします。

バイパス河川につきましては、ここの部分ですが、現在、川を横断する函渠工事と本町郵便局付近の護岸工事が進められており、これについても出水期前までに完了する予定でございます。

以上で報告を終わります。

○委員長（平嶋正一君） ありがとうございます。

何か御質問のある方はいらっしゃいませんか。

上村委員。

○委員（上村和男君） 上流域で水があふれるところがあるじゃないですか。水の流れが

悪くて。鷺田川の改修工事が進むと、その問題も少しは解決することにつながるんじゃないかな。

○委員長（平嶋正一君） 課長。

○土木課長（山田 学君） 今回県のほうでやっただいているトンネル工事とバイパス工事が完成した暁には、かなりの大雨に対する対策が施されるものと考えております。完成した暁に、状況を見て、その状況をまずは検証してまいりたいと考えているところでございます。

○委員（大石 泰君） いいですか。

○委員長（平嶋正一君） 大石委員。

○委員（大石 泰君） 要らんことかもしれんばってん、うちはよくなるけど、この下の御笠川のほうに行くじゃないですか、あそこも下を見たら、余りちゃんとしていないような気がするんです。その辺の心配は、筑紫野市が悪者になるようなことはないでしょうね。

○委員長（平嶋正一君） 部長。

○建設部長（森下義明君） 河川は下から整備するのが王道でございます。しかしながら、長年にわたる西鉄周辺の緊急事態をまずは解決しようということで、この地下河川工事をさせていただきます。

先ほど大石委員御心配の、下流は大丈夫なのかということでございますが、下流域を含む市町村で御笠川の改修促進協議会というものをつくって、毎年、それについては国、県に要望活動を一緒にさせていただいておりますし、今から先についても部分改修を計画しているところでございます。

以上でございます。

○委員長（平嶋正一君） 1点いいですか。最初の画面を出してください。それです。

今それを見ると、これをやると、セグメントを組むというか、それが最終的なでき上がりだろうと思うんですけども、それはどこまで進んでいるんですか。今、掘るのはあと60メートルと聞いたんですけども、内側の、内径をきれいにしていくのはどこまで行っているのかなと思ったんですが。

課長。

○土木課長（山田 学君） 今、この状態がずっと980メートルまで進んでいる状況でございます。その後、また出水期前までにはその他雑工事的なものが出てきますけれども、出水期に入りますので、まずはこの状況で、大雨が降ったときに水を流したいと考えているということです。その後、出水期が終わった段階で、2次覆工といいまして、コンクリ

ートで巻く工事を来年度中に行うというふうに聞いております。

○委員長（平嶋正一君） 私のイメージは、それまでにでき上がるのかと、水を流すのはその後かなと思ったんですが、もし大雨が降ったら、この状況の中を通すという意味ですか。

部長。

○建設部長（森下義明君） 先ほど委員長が言われましたように、セグメントというものは鋼製であったり、コンクリート製であったりということで、皆さんに御視察いただいたものです。周りに輪っかみたいなものをつけております。これで基本的には強度が達しておりますので、これで流せる、運用ができるような状態になっておりますが、今後、点検等も含めて、2次覆工という形で、先ほど課長が言いましたように、中をコンクリートで被覆します。そういうことが最終形になるのかなと思っておりますが、出水時期までには流せる状態で、今、供用できるという状況でございます。

○委員（辻本美恵子君） いいですか。

○委員長（平嶋正一君） はい、どうぞ。

○委員（辻本美恵子君） よくわからない。一旦、水を流した後、コンクリートを流すという作業は、水分の関係はどうなるんですかね。

○委員長（平嶋正一君） 課長。

○土木課長（山田 学君） 1度、出水期が終わった後に県が点検を行います。それで、コンクリートで被覆できるような状況にした後にコンクリートの工事を行うということになります。

○委員長（平嶋正一君） 辻本委員。

○委員（辻本美恵子君） そのコンクリートを張りつけている作業中に水が出た場合はどうなるんですか。

○委員長（平嶋正一君） 部長。

○建設部長（森下義明君） 基本的には、通常、常に水が入ってくることはございません。一定の水位まで上がらないと、流入口から地下河川の中に入りませんので、渇水期、現在、ほとんど水が流れていない状態ですが、そういう時期に点検を行う予定になっているということでございます。

○委員長（平嶋正一君） 副委員長。

○副委員長（波多江祐介君） 済みません、わからないので。どっちが先ですか。結局、工事が梅雨時期を迎えてしまうので流してしまおうなのか、そういった点検が必要である

ということで、1度、流した状況を見ながらまた見ていくという。例えば、さっき部長がおっしゃっていたように、雨が降らなければ水が入らないんですけど、下流のほうはたまったままですよ。押し上げる工法になっているので。またそれを抜くということになる。例えば、砂が入ったり、何か物が入ったら、また撤去するということもあるんですか。

○委員長（平嶋正一君） 課長。

○土木課長（山田 学君） 運用については、試験は、實際上、模型試験等を実施させていただいておりますので、計算上はスムーズに流れるということになります。

先ほど辻本委員のほうが言われましたように、基本、これはサイホンという形で、流れたものが押し流されるという形のやつで、1回入ってしまうと、中は水がたまった状態になります。流入口と流出口には、ポンプを設置しておりますので、点検する際については、ポンプで強制的に排除します。そしてその中の状況を確認したいと、運用的にはどういうタイミングでしゅんせつも含めてするのかということこれから長きにわたって検証していくと、県から言われておりますので。

○副委員長（波多江祐介君） 恐らくずっと管理が必要なんですね。

○土木課長（山田 学君） はい。

○副委員長（波多江祐介君） わかりました。

○委員長（平嶋正一君） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（平嶋正一君） 質疑を打ち切ります。

ありがとうございました。

では、交代のため、休憩いたします。

—————・—————・—————
休憩 午後3時13分

再開 午後3時13分
—————・—————・—————

○委員長（平嶋正一君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

担当課がおかわりになっていきますので、部長のほうから紹介をお願いいたします。

部長。

○建設部長（森下義明君） それでは、職員が入れかわりましたので、再度、自己紹介をさせていただきたいと思います。区画整理課の職員が自己紹介いたします。

○区画整理課長（野田清仁君） お疲れさまです。区画整理課長をしております野田です。